

ほとんど知らない オーケストラの**話**



(第9回)

オーケストラの**秘**経済学

東京フィルハーモニー交響楽団
専務理事・楽団長
石丸 恭一

町おこし村おこしのために現代アートを中心とした絵画彫刻で鳥おこしをする取り組みが行われ、世界一流の現代作品を集めその中心にモネの睡蓮の大作を置いたのですが現代作品には全く人が立ち止まらなかったそうです。そこで説明表示に作品の値段(億円)を記載したところ現代コーナーに人がどっと集まるようになり情報は世界に拡散されその結果日本のアートによる地域振興の範になる事になりました。

子供を育てるに当たって才能を伸ばしたいと思う親心で、もしや音楽の才能があればと思った時に大方はピアノを習わせようかヴァイオリンを習わせようかと考えます。そこでそっと楽器の値段を調べるとピアノは数十万円から何百万円もしますがヴァイオリンは何と一万円から数万円という値段なのです(因みにレッスン料は同じです)。そこでヴァイオリンを習わせることにしたという方も結構いらっしゃるのですが、時は流れて、どちらも素晴らしい才能に恵まれプロの道を目指すことになったのであります。音楽は音を出す楽器が重要な要素ですから道具が物を言う事になります。ピアノはさらに高い楽器に替える事も可能なのなのですが最高峰の楽器でも二千万円程度で

しかも学校にもホールにも備え付けてあるので。ヴァイオリンは安上りだったはずですがプロの段階に進む楽器は数百万〜一千万円代が普通でその先には一億円、さらに十億円の楽器も存在します。しかも備え付けは無く個人で持つ必要があります。両者が一流奏者になったとしてもギャラは同じなのであります。

オーケストラには多くの弦楽器奏者が必要ですのでプロのオーケストラは弦楽器だけで総額五億円〜五十億円の楽器が並んでいるのです。次に高額なのが木管楽器でフルートには総純金製の物もあります。木で作られた筒である楽器ファゴット(「蒔の束」というフランス語)には一千万円の値段で発注しても六年以上順番待ちになる楽器もあります。それらに比べると金管楽器は安く、一桁違う位の値段です。美しいハープは一千万円位です。打楽器のティンパニーは一揃い一千万円位ですが何ととっても自前で安いのは打楽器で全ての楽器は楽団の備品になっているので打楽器奏者が必要なのはバチ一組、二千円なのであります。オーケストラは演奏する前に数億〜数十億円の楽器が並んでいるのです。